

白藍塾オリジナル

2024年度 入試小論文分析&解答のヒント

2024年4月発行

白藍塾の入試小論文分析は、他の予備校と違って、その問題に対して受験生がどのようにアプローチすればよいのかを具体的に説明している。そのため、この分析を参考にすれば、誰でも合格レベルの答案を書けるはずだ。該当の大学・学部の志望者は、ぜひ、これを読んで、自分で実際に答案を書いてみてほしい。

執筆・大原理志

● 慶応・環境情報学部

昨年度は比較的オーソドックスな問題だったが、今年度はまた予想外の出題となった。設問1と2は、SFCの過去(1990~2000年代)の小論文問題と解答例をいくつか示し、その出題意図を考えさせ、受験生のどんな知的能力を測ろうとしているかを考えさせる問題だ。中には30年前の問題も含まれていて、過去問をしっかりとやってきた受験生でもさすがに目にしたことの無い問題がほとんどだろう。

とはいえ、SFCが受験生にどんな知的能力を求めているかは、SFC志望者ならわかっているはず。簡単に言えば、それは「複雑で不確定な現代の状況に対し、領域横断的なアプローチで、新たな知の枠組みを模索しつつ、自分なりに問題を発見・解決する能力」などとまとめられるだろう。

設問1の過去問は、ネットワーク化が進み、近代科学がもはや絶対的ではなく、不確定性を強めている状況と、それにふさわしい知のあり方を問題にしている。そうした状況を複数の資料から読み取った上で、新たな知のあり方を模索し、問題の発見・解決につなげる能力が求められていると言っていいたいだろう。

設問2で求められているのは、簡単に言えば、ルール(解法)を理解した上でそれに従って論理的に、かつ短時間で解を導き出す論理的思考力と情報処理能力だろう。もちろん、過去問の数学問題をいちいち解く必要はない。何を問われているのかが説明できる程度にわかっているだけで十分だ。

設問3は、SFCにおける新しい入試のプロトタイプ(ミニ試験)を考えるという問題。これはかなり厄介な問題で、どう対応すればよいかわからない受験生も多いだろう。

4つの要件や設問の条件を厳密に満たそうとすると、何も考えられなくなる恐れがあるので、まずは設問3-1の「あなた自身の思考の特徴」から考えるとよい。もちろん正直に答える必要はないので、コミュニケーション力、プレゼン力、発想力、情報を活用する力など、SFCで求められそうな力を考える。「出題意図」については、設問1の答えも踏まえつつ、これからの社会ではその3つの能力が求められていること、そしてそれはなぜかを説明する。

設問3-2では、試験の内容を具体的に説明する必要がある。もちろん、設問3-2の出題意図とかみ合うような内容でなくてはいけない。ただ、4つの要件や設問の条件を満たすことをまず考える

よりも、だいたいの試験の内容や進め方などを決めた上で、要件から外れすぎないように微調整すればよい。ペーパーテストだけでなく、プレゼンテーションや質疑応答、受験者同士の討論、スマホを使ったデータ収集なども組み合わせて考えると、自然と要件4はクリアできるはずだ。また、3つの能力をどう客観的に評価するかも考える必要があるが、例えばプレゼン力や発想力などを厳密に数値化するのは不可能なので、「共通の基準で複数の採点官や参加者に採点してもらい、その総計に従って順位をつける」程度で十分だろう。

書き方としては、「試験の内容」「試験のルールと進め方」「評価の仕方」など、項目別に説明していく形にするとよいはずだ。

いずれにしても、設問3は受験生に対してかなりの無茶振りと言えるので、あまり難しく考えすぎる必要はない。「SFCらしさ」とは何かを考え、それにふさわしい能力や試験内容を考えることができれば、それで十分だ。

* 執筆者の許可なく本紙の全部もしくは一部を無断転載、無断複写することを固く禁じます。

発行・白藍塾総合情報室 (03-3369-1179) <https://hakuranjuku.co.jp>